

若者が一人、名古屋市東区
のシティーマンションに入っ
た。訪れたのは四階の一室
「占いの玉手箱」。ドアの向
こうには、占い師・竹村亜希
子さん(三六)が座っていた。

若者は勤め先の外資系大手
化学メーカーを辞めたかっ
た。そうしていいかどうか、
竹村さんに占って欲しかった
のだ。彼は、一流私大工学部
四年だった二年前の夏にも、
就職先を決めるためにここに
いたことがあった。

「大学の研究室には戻れな
いかなあ?」。若者は終始、
真顔だった。